野間宏全集

第十二巻

野間宏全集

第十二巻

筑摩書房

野間宏全集　第十二巻

一九七〇年十月十日第一刷発行

著　者　野間宏

発行者　竹之内静雄

発行所　株式会社筑摩書房
東京都千代田区神田小川町二ノ八
電話東京二九一―七六五一（代表）
郵便番号一〇一―九一
振替東京四一二三

本文印刷　暁印刷株式会社
製本　和田製本工業株式会社

（分類）0393（製品）71412（出版社）4604

目次

詩集　星座の痛み　3
詩篇および訳詩　83
同人雑誌『三人』の頃　146
詩に於ける自然と社会　148
気で病む狼　159
狼は消えた　169
詩「白・黒・黄色」について　175
戯曲　179
黄金の夜明ける　181
冷凍時代　272
放送劇　339
オオム社長の誕生日を祝う　341

約束の場所 355
包囲 377
手形 396
夜の街 411
石の顔 423
ドラマについて 455
手形について 456
野間宏の詩について 458
解説 菅原克己・高山図南雄 461

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

詩・戯曲集

詩集

星座の痛み

雲雀

雪の敷く広く暖かい純白の歓びが、
優しく狂いなく吾が胸を越え
遙か馳けて透明の地平を占めて行く、
この春の野の拡がりは心もつ誰にも眩しいか、
やがて何処よりか紅の色を展げる一つの顔のように
美しい陽炎の羞恥の前ぶれのほか何もとどめない。

一筋の忘却の声を透かせて
青い天の生はこの雪の上に何を考える、
ときに明るく日の切る思い出よりも軽くやわらか
悲しみは昼の星の錘り附けて空深く沈めてある、
ここに響きを以て高さを許す
一羽の雲雀が背に負うよろこび。

声捲け声捲け春は美し、
この声降して如何にして雪の面を微笑(わら)わせる、
しかもなお悲しみ残れば地の上のさらに大きな歓び空に伝えよ！
既に幸福は雪の野の四隅に火を附けているが、
この身さらに放ち天と共に焦すにはしばし時あり、
ひと時の沈黙の雲雀の獻歌(すすりなき)、この鳥の涙来て皎銀(しろがね)とらえよ！

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

火の縛め

美しい白い千の手持つ驟雨来て
夏の烈しい眩暈地にたたき
ひときわ暗く吾が心のうちのもの掠い尽し行け、
既に吾が恋はその辺りに涼し……。

未だ媚ある地平の色惜む？
誰が燃えいるこころ何処に運ぶか雨に乱れる蝶の火翅(ひばね)よ！
いまは我と去りゆくものをつなぐ唯一つの虹空にかけ、
しばしなりとも色分けて鮮やかに置け！

大いなる季節の囁きを聞いた
この雨は我を魅せし生(いのち)の証なり、
ものみなは炎の縛解いて馳けて行く、
生きかえる、生きかえる足取りの火を移し……。

幸福は滝の形をなして

昼の廻る深い空の身内が静かに熱く、
酔いに隠れる厚い星の群を匐わせている。
吾が幸福は重く、地の花を倒し、
歓びの焦し動かす滝の形をなして。

火とするけもの、ここに蜜は甘く炎する。
己が翅色焼く一羽の蝶を空に放ち、
いま、春燃やす夏の野に色づける快楽、
灯り出る身の熱の烈しい数々に　空は身を返し、身を返し……。

北国

降りつむ雪に
白鳥よ、はだを隠した衣をぬげ！
向うの山から拡がる雪のかおり、
馴鹿は、赤い燈(ともし)をゆり、渡り、
雪の下にきこえる木々の声。
恋人よ　明るい暖炉に
いっしょに　暖いコーヒーを飲もう。

葡萄のように

限りない己が重みを感じている、葡萄のように
明るくまるく果てもない、地平線にかこまれて
ひとりでに熟れて行くこの神の収穫(とういれ)、
澄み切った大地の匂いがする、

土地はどこまでも乾いている、
空はすみずみまで青い、神の影、
あらゆるものはただこの実りのためにあり　豊かな土だ、
在処(ありか)なく、日は若い女を匂わす。

魂の天体

恋人よ、夕暮の野に花に代って花よりも柔らかく胸は開く、
君を思うてわが身体の真上に憩いあり、
そこに巨なる愛の瞬きの聚雨渡る如く
幾千の星仰ぎ見てその涼しい生命の響わが額掠めて落ち来るとも。

なお幾千の苦悩に繋がれている我がために
泣いて、堆い涙噴く瞼閉さず泣いて、
君が涙のその顔を
夕の空に月の如く昇せよ！

わが罪草々のはしに輝いて姿現す、埋めるところなし、
わが背骨は重く幾千の苦悩に召されて立ちつくす、
かかるとき月は如何なる憂いの盈虚放つか、
心にきせる微笑のしずく。

ああ　月と共に悲しみ統べる魂の天体の深みに我投入れよ！
天に属するわが掌(てのひら)に
再び我を握らせるため、
光り含める大空の運行に乱れ起こるとも美しい心の星々の故に許されよう。

幾度かの憧憬なお新、なお苦し
優しさはわが魂の周辺に濡れかかる、
寂しい風背に鳴り
われこの広大の中に手渡すわが身体を如何にしよう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c